

達成度（評価） A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である

学校名	武雄市立武雄小学校
-----	-----------

1 前年度評価結果の概要	・学力向上・・・・・・・・一人一台端末を活用した授業実践と学力の向上につながる授業改善を行う。家庭との連携を通して、家庭学習の更なる充実を目指す。 ・道德教育の充実・・・・・・・・「豊かな心を育てる教育の推進」を目指して、道德の授業を含め、教育活動全般を通して育成する教育課程の編成が必要である。 ・特別支援教育・・・・・・・・すべての教職員が研修を深め、児童の実態に即した対応力を身に付ける。引き続き、関係機関との連携を図る。 ・業務改善・働き方改革・・・・・・・・それぞれの教職員が働き方に対する意識改革を行い、タイムマネジメントの能力の育成向上を目指す。
--------------	---

2 学校教育目標	学ぶことは楽しいことだと実感し、次の学びに意欲的に取り組む児童の育成
----------	------------------------------------

3 本年度の重点目標	【志】 やり抜く力の育成 目標に向かって粘り強く取り組み、意欲を次の学びにつなげる子ども 【知】 確かな学力の向上 やる気いっぱい、進んで学ぶ子ども 【徳】 豊かな心の育成 笑顔いっぱい、やさしい子ども 【体】 たくましい体の育成 元気いっぱい、たくましい子ども
------------	--

4 重点取組内容・成果指標				主な担当者	
（１）共通評価項目					
	重点取組		具体的取組		
	評価項目	取組内容			成果指標口(数値目標)
●学力の向上		●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師８０％以上	・西部型授業の問題解決型学習を意識した授業実践をし、教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修により取組の促進を図る。	松永 （学力向上対策コーディネーター）
		○ICTを活用した教育の推進 ・１人１台端末を活用した授業改善	○教師のＩＣＴ機器の利用率９０％以上	・スキルアップ研修や、低中高特での情報共有の時間を設け、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の実現に向けた１人１台端末活用事例を増やし、実践に生かす。	徳永（研究主任） 大古場（ICT教員担当）
		○基本的学習習慣の取り組み ・授業中の学習習慣の定着 ・家庭学習のさらなる充実	○基本的な学習習慣の定着と家庭学習ができた児童の割合を９０％以上	・各学級で宿題の提出の有無をはっきりさせ、未提出の児童はその日のうちに確実にやり終えるように指導を徹底する。 ・宿題の取り組みを徹底できるように、家庭への連絡を行い、協力を促す。	学習部 井手（家庭学習）
●心の教育		●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身につける教育活動	◎学校行事や日頃の生活、道徳の授業を通して、子どもの豊かな心の育成に結びつくような学習や活動の工夫に努めている教師９０％以上	・内容項目を確認して確実な授業の実施を行う。 ・教室の掲示コーナーに道徳の学習や学校行事等の足跡を残し、児童の心を育む環境づくりを定期的に行う。	桑原（教務主任） 古賀萌（道徳教育推進教員）
		●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学校で安心して楽しく過ごせているという児童の意識を９０％以上	・月に１回の「気になる子」報告会と、生活アンケートでいじめにつながる可能性がある事案の対応にあたる。 ・いじめ対策委員会において、具体的対応策を協議し職員全体で指導対応にあたる。 ・全教科を通して人権・同和教育を推進する。	松尾（生徒指導主任） 大古場・秀島 （人権・同和教育担当）
		○目標に向かって粘り強く取り組み、意欲を次の学びにつなげる子ども ・学級経営の充実	◎「目標に向かって粘り強く取り組み、次の学びにつなげることができた」について肯定的な回答をした児童７０％以上 ◎目標に向かって粘り強く取り組み、次の学びにつなげるような学習や活動の工夫に努めている教師７０％以上	・「キャリア・パスポート」を活用し、学校生活の中でめあてを持ったり振り返りを行ったりして自己評価を行い、主体的に学びに向かう力ややり抜く力を育成する。	教務主任 各学級担任
●健康・体づくり		①「望ましい生活習慣の形成」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①「早寝、早起き、朝ご飯」等の基本的な生活習慣の習慣化ができている児童を85％以上 ②「健康に食事は大切である」と考える児童１００％	①睡眠や朝食喫食、テレビ視聴やゲームの時間設定の啓発を行う。また、学校だよりや学年通信等で基本的な生活習慣の習慣化について定期的に啓発する。 ②各学年の指導目標を実現できるよう意識して指導する。	保体部 小川（食育担当） 原（養護教諭）
		○体育的行事の充実 ・体育、健康、保健に係る教育の推進	○体力向上に関する子ども一人一人の学びの充実を大切にしようとする教師８５％以上	・日々の体育の授業を中心にして、スポーツフェスタなど体を動かすことの心地よさに触れさせる機会を設定し、体力向上の推進を図る。 ・計画的、定期的に体力向上に関する取り組みを実施し、学級指導に活用する。	保体部 中村（体力向上担当）
●業務改善・教職員の働き方改革の推進		●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・会議資料等のを早めに配布し、会議は検討事項のみ「提案をして会議の短縮を図る。	教頭・事務長
		○教職員の働き方に対する意識改革を行いタイムマネジメント能力の育成を図る。	○タイムレコーダーを活用し教職員の勤怠管理を行い、会議や業務の効率化を進めながら前年度同月比５％減にする。	・毎月「業務チェックシート」で、勤務時間の改善を図る。 ・働き方対策委員会を開催し、職員全体で改善すべき点を確認し、実践する。 ・毎週金曜日の定期退勤を呼びかける。	教頭・事務長
（２）本年度重点的に取り組む独自評価項目					主な担当者
	重点取組		具体的取組		
	評価項目	重点取組内容		成果指標口(数値目標)	
○特別支援教育の充実		○特別支援教育の充実 ・保護者や専門機関との連携	○児童との関係を大切にした相談活動を充実させる。 ・会議の情報交換を行い、職員全体での共通理解をする。 ・情報交換により、児童理解ができたという教師を８０％にする。	・計画的、定期的に会議（支援会議、スマイル会議、スクールカウンセラーのカウンセリングの報告、巡回相談等）を実施し、児童の実態把握、関係機関との連携を協議し、支援体制を構築する。 ・全職員に対して児童理解に関する意識調査を行う。	特別支援部 小林・多久島三 （教育相談担当）
◎防災教育の充実		○防災教育の充実	①子どもの生活アンケートの防災関連項目について、「わかる」「できる」「知っている」が８０％以上 ②水難危険箇所等の防災上重要な箇所の職員による把握が１００％ ③大雨や台風等における児童の下校体制の充実	・月に1回の緊急放送訓練の実施(児童向け) ・全校朝会での防災に関する説話(児童向け) ・佐賀豪雨に関する写真などの掲示 ・危険箇所の把握に関する研修・実地確認(職員向け) ・大雨や台風等における児童の下校体制のマニュアル化	生活部 井手（防災教育担当）
○花まるタイムの定着		○民間の良さを取り込んだ「花まるタイム」の推進 ○地域とのつながりを感じ、郷土を愛する心の育成	○花まるタイムの取り組みについて肯定的な回答をする児童と地域の方々８０％以上	・花まるタイムの年間計画に基づいた計画的な実施。 ・地域の方と児童が交流している姿をHPや掲示板を使って取り上げ、地域の方の花まるタイムへの意欲を上げる。 ・地域の方をGT活用（地域との連携）	教頭（地域連携） 桑原・大古場（花まる担当）
●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育					

5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・
----------------	-------------